



- ・奥尻町では、町営バス（北回り1系統、南回り2系統）が定時定路線で運行していたが、市街地をくまなく走るタイプのバスではないことから、「自家用車を利用できない人の町内移動の利便性が低い」ことを重点課題として捉えていた。本事業により、デマンド交通を一部導入し、ドアツードアの運行を可能にすることで住民/観光客の移動の利便性向上を図る。
- ・奥尻地区（役場付近）において公共ライドシェア（グリーンスローモビリティ）を導入し、地球環境に優しい、維持可能な新交通網の確保を図る。
- ・上記に加え、バス車両の更新（小型化）を進め、快適かつ利便性の高い交通網の構築を目指す。

事業の内容

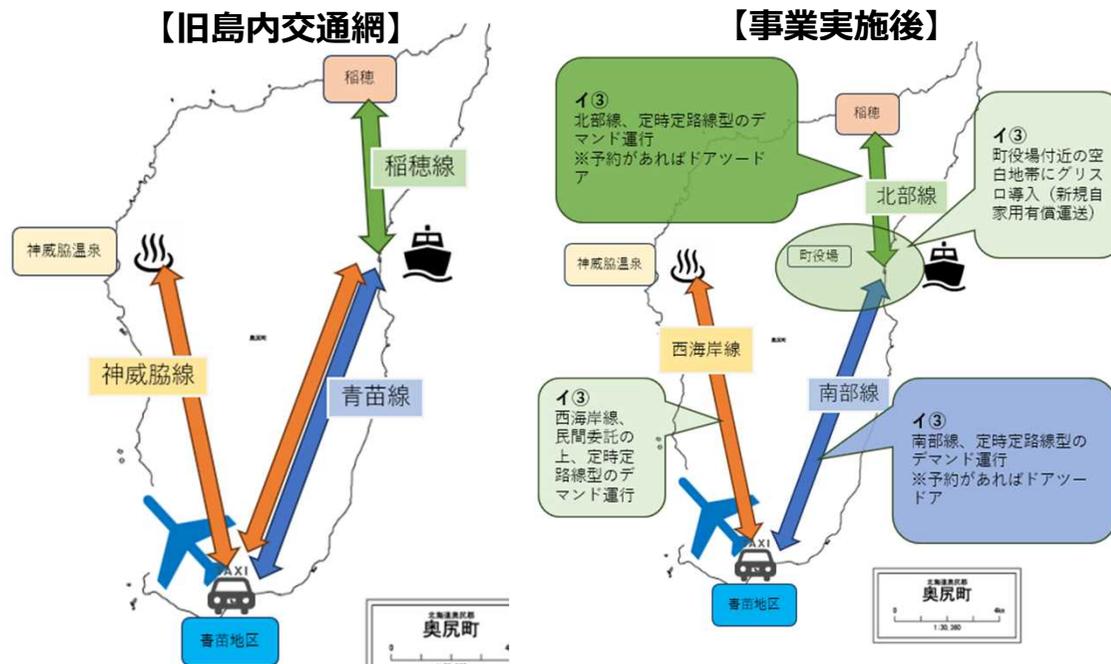
事業Ⅰ 市街地における町内公共交通の見直し

- ①自家用有償旅客運送の新規導入（イ（3））
 - ・奥尻市街地にデマンド型の新交通（グリーンスローモビリティ）導入
- ②既存系統の再編及び運送形態変更（新規国庫補助予定）
 - ・奥尻－神威脇温泉間の直通便を、奥尻空港をハブとした2系統に再編
 - ・島内の全系統を定時定路線型デマンド交通と整理し、予約があれば各々の自宅等へドアツードアの運行を可能とする

事業Ⅱ 利用環境の整備

- ①新たな車両の導入
 - ・乗車人数に対してバスの定員が大きすぎることから、車両の小型化を行い、運行効率の改善、燃料費等の削減を図る。

作成自治体	奥尻町
事業実施区域	奥尻町
事業実施予定期間	令和8年4月～令和13年3月
実施事業者	奥尻町



事業の効果

事業Ⅰ

- ①町有バスのバス停から離れた地区の町民が病院や役場、買い物施設を利用する際の利便性向上
- ②自宅前や指定場所で乗降できるため、きめ細かなサービス展開による利便性の向上

事業Ⅱ

- ・燃料費や定期点検等の維持管理コストの削減に繋がり、車両の小型化によって運行時の機動性や視認性が向上し安全な運行に寄与



ダウンサイズ後の町営バス



導入されるグリーンスローモビリティ